

2020年 7月19日礼拝式次第

日本基督教団半田教会
横山良樹牧師

招詞 : ローマの信徒への手紙 12 : 1

こういうわけで、兄弟たち、神の憐みによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとしてささげなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。

讚美歌 21-51番（愛するイエスよ）より1番のみ

愛するイエスよ、我らここにあり。世の思いみな
うしろに退け 御言葉したいて ここにあつまりぬ

詩篇交読 92篇

祈 禱

すべてのものを造り、歴史を支配される全能の父なる神さま。聖日の朝を迎えました。新しい週の訪れを感謝をいたします。コロナウィルスの感染が再び各地で勢いを増すなかで、わたしたちの命をお守り下さり、罪と死の支配を、御子イエス・キリストの十字架の死によって滅ぼし、復活の希望に与るものとして下さったことを感謝いたします。7日ごとに召し集められ、この天来の消息によって整えられますことの恵みを思います。主を畏れることは知恵の初めと言われますように、わたしたちの1週間を始めます前に、すべてをすべ収めておられるあなたの御前に静まり、あなたの御言葉によって、あなたへの信頼をいよいよ厚くし、御心が地上になるように、あなたの御心がそれぞれ召し集められた者のうえになるように心から願います。世代の課題をおって地上を歩む者たちが、いま礼拝をささげるこのとき、あなたの御前に会ってひとつとされ、老いも若きも、男も女も、あなたの民に加えられていることによって、互いに愛し合い、支えあうことの出来る群れとしてください。御言葉を取り次ぐ者、奏楽をする者、聴く者すべてを整えて、あなたの御心を聴きとることの出来る礼拝、あなたを喜び祝う民をこの場にあなたの霊によって創造してください。この願いと感謝、主イエス・キリストの

御名によって祈ります。

アーメン

聖書朗読：テサロニケの信徒への手紙 4章1～12節

さて、兄弟たち、主イエスに結ばれた者として、わたしたちは更に願ひ、また勧めます。あなたがたは、神に喜ばれるためにどのように歩むべきかを、わたしたちから学びました。そして、現にそのように歩んでいます。どうか、その歩みを今後も更に続けてください。わたしたちが主イエスによってどのように命令したか、あなたがたはよく知っているはずです。実に、神の御心は、あなたがたが聖なる者となることです。すなわちみだらな行いを避け、おのおの汚れのない心と尊敬の念をもって妻と生活するように学ばねばならず、神を知らない異邦人のように情欲におぼれてはならないのです。このようなことで、兄弟を踏みつけたり、欺いたりしてはいけません。わたしたちが以前にも告げ、また厳しく戒めておいたように、主はこれらすべてのことについて罰をお与えになるからです。神がわたしたちを招かれたのは、汚れた生き方ではなく、聖なる生活をさせるためです。ですから、これらの警告を拒む者は、人を拒むのではなく、ご自分の聖霊をあなたがたのうちに与えて下さる神を拒むことになるのです。

兄弟愛については、あなたがたに書く必要はありません。あなたがた自身、互いに愛し合うように、神から教えられているからです。現に、あなたがたは、マケドニア州全土に住むすべての兄弟に、それを実行しています。しかし、兄弟たち、なおいっそう励むように勧めます。そして、わたしたちが命じておいたように、落ち着いた生活をし、自分の仕事に励み、自分の手で働くように努めなさい。そうすれば、外部の人々に対して品位をもって歩み、だれにも迷惑をかけないで済むでしょう。

讚美歌： 21－205番「今日は光が」（5番）

説教： 「神に喜ばれるために」

テサロニケの信徒への手紙の 4 章は、いわゆる倫理について語る部分です。倫理というところがちょっと固いですが、「人の生きる道」、それも「よく」生きる道筋、あるいは人がよく生きる理（ことわり）と言ったらよいでしょうか。パウロは、手紙の冒頭からここまで、テサロニケの信徒たちから与えられた喜びと、そのように導いて下さった神への感謝を繰り返し語ってきました。そして、テモテが聞かせてくれたテサロニケの信徒たちの様子にもとづいて勧めの部分に入っていきます。この手紙の内容上の中心、つまりテサロニケの信徒たちの心配事は、このつぎの 13 節以下の部分であり、今日の箇所は、もう少し一般的な勧めになっています。彼らが気にしている問題に触れる前に、一般論として、老婆心として、というほうが適当かもしれませんが、パウロは、彼らの歩んでいる道を更に前進し、右にも左にもそれることがないように念を押している、そういう印象のパートです。ここから、神の言葉によって人格と人生と共同体を形作るわたしたちに与えられる示しについて、今朝はご一緒に聴きたいと願っています。

まず、第一に、出発点がわたしではないことに注目しなければなりません。もちろん、わたしの行いが求められています。そして、わたしがどのように生きるかは、わたしの決定にもとづくものだとなつたことは考えるでしょう。ですから、第一歩はわたしが踏み出すのだと当然考えます。しかし、パウロの勧めの言葉は、こう始まっています。「さて、兄弟たち、主イエスに結ばれた者として、わたしたちは更に願い、また勧めます」。出発点から一人で歩むのではない。主イエスに結ばれたわたしが、同じように主イエスに結ばれたわたしたちという群れの中にあり、そのように神に願われているものとして生きるのだとパウロは出発点を引き直すのです。あなたひとりでこうせよ、と、あなた自身の判断で生きることを聖書は求めていません。「初めに、言葉があった。言葉は神とともにあった。言葉は神であった」と言われるように、わたしたちは、初めにあった神の言葉によって生きるのです。神の言葉と共に生きるのです。まず神の口から出た言葉によって呼び掛けられて生まれる木霊のように、まさにオウム返しでわたしはよいと思うのですが、福音というキリスト・イエスから発せられる響きの木霊として、赦された自分、神に愛されたわたし、主に結ばれて生きることの許された喜ばしいわたしとして、主と共に生きる。主と共に生きる者たちと群れで生きる。それが救われた者の生き方だということをおパウロはテサロニケの人々の意識に刻み込もうとし

ています。誰も一人ではないし、一人でいきにはならない。キリスト・イエスと出会い、福音を受け入れて生きる者たちは、主に結ばれた者として、創造主である神を父と呼ぶことを許され、この方との関係の中で、主にある兄弟姉妹の交わりの中でセルフイメージを新しく創り上げてゆく。神に願われた自分になってゆく。そこにキリスト教の倫理があるのです。それは単純に「ひとのみち」というのではなく、インマヌエル＝神われらと共にいます、というキリストとともに生活の始まりであり、しかも、そこにおいて「主イエスに結ばれた者として」とあるように、主導権は「わたしの主」にあるのであり、わたしは僕なのだということを弁えておきたいのです。聖書に示される神は、人間とともに歴史を歩まれる神です。そのようなかたちで、神はわたしたちと関わってくださいました。世を愛し、独り子をくださるほどにわたしたちを愛してくださったのです。ですから、この真実を、わたしの事実として受け入れた者たちは、決してひとりで物事を決めてはならない。神の言葉に照らして、キリストと共に歩むことを通して、罪赦された者として、神の願われる和解と一致の共同体である教会につながれていることを覚えて生きるのです。この出発点を間違えるとボタンの掛け違いといいますが、すべて、わたしが、わたしたちが、という人間中心の組織作り、人間の能力主義の集団が生まれてゆきます。そうではない。かならず、恵みが先行するのです。神の声掛け、神の選び、わたしたち一人一人に対する神さまの御計画が先にあって、それから、その呼びかけによって、信仰者としてのわたしたちが生まれるのです。この信仰の筋道にしたがって、生まれたばかりの信仰者であるテサロニケの人々は独り立ちではなく、主イエスに結ばれた者として、キリストと共に生きる者となることをパウロに願われているのです。わたしたちがそうであったように、あなたがたもそうであってほしいというパウロの願いをまずここからくみ取らなければなりません。

この点を確認したうえで、パウロは、わたしたちの生きる目的がなんであるかを明らかにします。生きる目的はなんですか、とは学校でもなかなか教えることは出来ません。将来、何になりたいですか、ぐらゐの職業の希望といったあたりがせいぜいですが、学力や、身体能力によって、わたしたちは成長するにつれ、そうした希望を修正して現実に寄せてゆく。そして、そのなかで幸せになりたいとか、お金持ちになりたいとか、人の役に立ちたいとかいうあたりに落ち着いていくように思います。昔ですと、世のため、人のためというような言葉もありましたが、いまは自己実現という言葉が一番適当な言葉かもしれません。それは自分のために生きるということでしょうか。

それぞれが自分のために生きて全体の調和に寄与するものであればよいですが、わたしたちはもう各自が勝手にする幸福の追求が「神の見えざる手によって」調和し、利益をもたらすといった古典的で、楽観的な考えに立つことは難しいでしょう。近年の完全に梅雨の概念が変わったとしか考えられない豪雨の背景には地球温暖化の影響があると言われていています。地球環境の問題はその原因をさかのぼってゆけばわたしたち一人一人の生活の仕方、文明の在りようにまでたどり着くのですが、そこまで考えて生きていないために取り組みにくい問題となっています。自己実現という言葉にまで分解されてしまった今日の人間の状況に対して、パウロは、人は何のために生きるかということ、ここで「神に喜ばれるため」に生きるのだと答えを出しています。あなたがたは神に喜ばれるためにどのように歩むべきかをわたしたちから学んだ、と言い、その道をさらにまっすぐに進んでくださいと励ましています。パウロは、彼らが神に喜ばれる生活を送ることによって、「聖なる者となる」ことが神の御心であると告げています。これがキリスト教の倫理の道筋であり、目的地ですね。テサロニケの人々のみならず、わたしたちにも願われていることです。しかし、最初に申し上げたように、この道筋はかならず「神とともに」、ここでの表現でいえば「主イエスに結ばれた者として」目指すべきことであって、絶対に、この前提から切り離して自分一人で「聖なる者となる」ことを目指してはなりません。それは自分以外の人間を低くし、支配し、切り捨ててゆく道になるからです。パウロは「召されて聖なる者とされた」という表現をよく用いています。わたしは聖なるという言葉が人間が使う時には、これ以外の使い方はないと思っています。自分が立候補するのではないのです。神が選ばれた、罪びとであるわたしに救い主が必要であるとお考えになって独り子を送って下さった。この赦しの恵みによって生かされるわたしは、主イエスに結ばれて歩むことを許された僕なのです。

「誇る者は主を誇れ」とパウロが言いますように、わたしたちは神を褒め、喜ぶ存在であって、召された僕であるということを忘れてはなりません。日曜ごとの礼拝は、神を忘れ、たかぶるわたしを礼拝者として、御前に立たせ、神とわたしという、呼びかけられて生きる本来のわたしに立ち戻らせ、自己実現ではなく、わたしの主の願われることの実現へ、わたしの願いではなく御心の実現することが全体の調和と一致になることを確認する大切な機会です。聖書で説かれる倫理には、ひとつの真理が前提となっています。それは恵みを先に頂くということです。あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたが出かけて行って実を結び、その

実が残るようと、また、わたしの名によって父に願うものが何でも与えられるようと、わたしがあなたがたを任命したのである。これはヨハネによる福音書の有名なぶどうの木の譬えの結びに語られる主イエスのお言葉です。ブドウの木とつながっているから、わたしたちは実を結ぶことができます。手入れをする者も主が送ってくださいます。主がわたしを愛して下さり、命を捨てて下さった。贖ってくださった。その大変なおおきな恵み、贈り物の土台の上に、わたしたちの倫理は登場するのです。キリストがわたしたちのために命をおいて下さって、土台となって下さっている。そして、聖霊を送って下さり、ご自身の教えを心に刻み、歩ませてくださる。この道筋を決してパウロは外しません。救われて、愛されて、そのうえで神の恵みによって選びにふさわしい実を結ぶようと勧めるのです。「主イエスに結ばれた者としてわたしたちは更に願い、勧めます」とパウロは語ります。救われたわたしたちの歩みは、ここから、恵みに対する応答、感謝の応答になってゆきます。そこに初めて、主の喜ばれる道が据えられてゆくことを覚えたく願います。

お祈りいたします。

神さま、暗い夜の間も守られて、新しい朝、新しい命に生かして下さり、主にある兄弟姉妹とともに、半田教会の群れの一員として生かして下さる恵みを心から感謝いたします。それぞれの属する場があり、生きる場所があります。あなたがわたしたちを置いて下さった場です。しかし、あなたは同時に、教会という、主に召し集められた群れ、御子イエス・キリストに愛され、呼び出された群れのなかに、わたしを置いて下さり、慰めと励ましと愛に生きる群れを置いて下さっていることを感謝いたします。僕として、あなたの備えられる道をこの週も歩み、御名の栄光を現わすことができますように用いてください。この祈り、わたしたちの主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

讚美歌 21-460 「やさしき道しるべの」(2番)

CS 任職式 (第二礼拝)

献 金

報 告

添付の週報をご覧ください

祈 禱

主の御名が崇められるように。コロナウィルス感染症対策
下で、医療・介護・福祉に従事する方たちのために、とも
に礼拝をささげる日が与えられるように。今日、新しく生
まれ、神の民に加えられた者のために。

主の祈り

天にまします我らの父よ
ねがわくば御名をあげさせたまえ
御国を来たさせたまえ
御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
我らに罪を犯す者を 我らがゆるすごとく
我らの罪をも ゆるしたまえ
我らを試みにあわせず 悪より救い出したまえ
国と力と栄とは 限りなく汝のものなればなり

アーメン

祝 禱

主イエス・キリストの恵みと、
父なる神の愛と
聖霊との親しき御交わりが
主の恵みのご支配を信じてこの世を生き抜く
あなたがた一同の上に、とこしえにあるように。

アーメン！